

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成19年度病害虫発生予察注意報第12号について
平成19年度病害虫発生予察注意報第12号を発表したので送付します。

平成19年度病害虫発生予察注意報第12号

平成20年 1月25日
宮 崎 県

- 病害虫名 灰色かび病
作物名 冬春トマト(大玉・中玉・ミニ)
- 1 発生地域 県下全域
 - 2 発生時期 本圃収穫期
 - 3 発生量 多
 - 4 注意報の根拠

- 1) 1月中旬の巡回調査における茎葉での灰色かび病の発生面積率は57.1%(平年 1.8% 前年 8.3%)、発病株率は6.1%(平年 0.0% 前年 0.3%)で、ともに平年より多であり、1月の発生量としては、過去10年間で最も高い数値である。(図1, 2)
実害となる果実での発症については、発生面積率が7.1%(平年 0.8% 前年 0.0%)で平年より多、発病果率は0.07%(平年0.05% 前年0.01%)で、平年よりやや多である。(図3, 4)
- 2) 3月に入って急激に発生が増加した昨年よりも現時点での発生量が多く、向こう1か月の天候予想でも、平年に比べて曇りや雨の日が多く、気温は平年並または高い見込みであり、本病害の発生・蔓延に好適な条件が続くと考えられる。
(平成20年1月18日 鹿児島地方気象台発表)

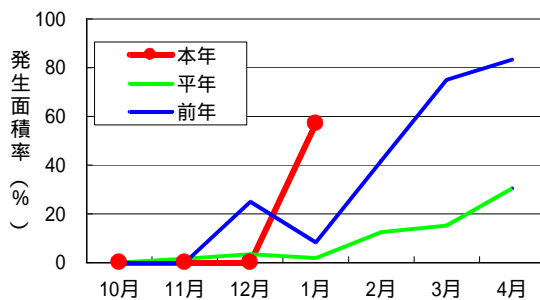


図1 灰色かび病(株)の発生面積率の推移

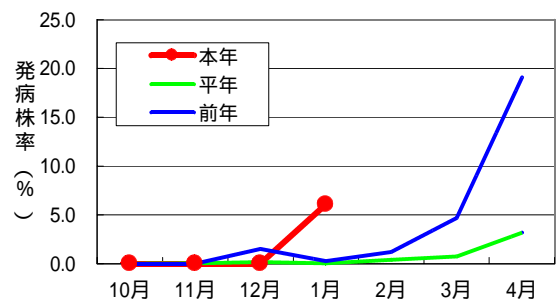


図2 発病株率の推移

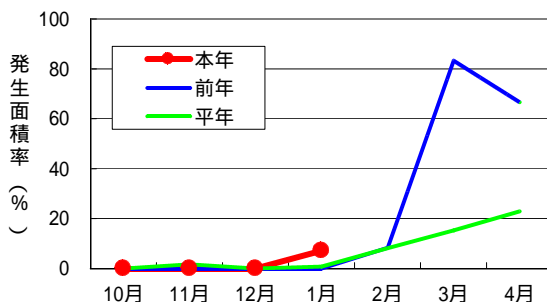


図3 灰色かび病(果)の発生面積率の推移

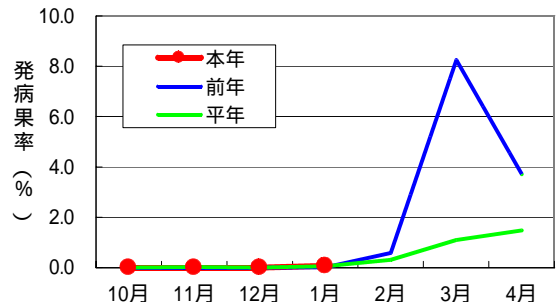


図4 発病果率の推移

5 防除上の注意

- 1) 灰色かび病菌の侵入及び発病は最適温度が15～23 と比較的低温で、多湿条件であることから、ハウス内の温度および湿度管理に注意する。
日最低気温が高いと、温度設定条件によっては暖房機が稼働しないこともあり、また、多重被覆の内張りに用いている資材によっては容易に霧が発生するなど、より果実等が結露しやすくなるので、送風機を作動させるなどの管理を行う。
- 2) 発病した果実や花弁、茎葉等は伝染源になるので、こまめに取り除いてほ場外に持ち出し、適切に処分する。
果実では、かびが発生しなくても、果実表面に黄白色の小斑点（ゴーストスポット）が生じることがあり、商品価値を著しく落とすので注意を要する。
- 3) 病勢が進行すると防除困難となるため、早期発見・早期防除に努める。
- 4) ボトキラーやインプレッションなどの微生物農薬を利用する場合、低温条件下では効果が現れにくいので、10 以上の温度を確保するよう努める。また、これらの剤は予防剤であるため、予防的な防除を基本とし、多発後は化学農薬と組み合わせた防除を実施する。
- 5) 薬剤耐性菌を生じる恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。
- 6) その他詳細については、病虫害防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、各農業改良普及センター等関係機関に照会する。また、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

《連絡先》

病虫害防除・肥料検査センター 米良

TEL : 0985-73-6670 Fax : 0985-73-7499

ホームページ : <http://www.jpnp.ne.jp/miyazaki>

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp